



くろ さき

◆黒崎のクスノキ (大字岬)

濃い緑が煙る黒崎公園の玉垂神社にひっそりと、でも堂々と立つクスノキ。幹に近づくと、参加者から「はあー」と静かな溜息がもれた。樹齢は300年以上と推定。



かみ うち

◆上内のイチイガシ (大字上内)

ブナ科の常緑高木。どんぐりの木としても親しまれる。ここのイチイガシは、幹の模様が美しく、木の勢いがよいのが魅力。木の高さは、25メートルを超える。樹齢は200年以上と推定。上内八幡宮内。

巨木は語る

連載
おおむた自慢

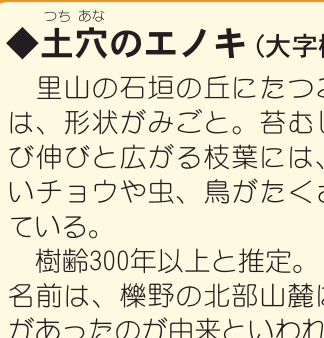
おおむたには、樹齢数百年を超える巨木がたくさんあります。数百年のときを超えて、今も私たちを静かに見守り続けています。今回は、「巨木ツアー」(主催：大牟田市、協力：大牟田生物愛好会)に同行し、取材しました。それぞれの木が、長い年月を生き抜いてきた風格があり、じっと耳をすますと、300年の歴史を静かに語りかけてきます。あなたのお気に入りの巨木をみつけてみませんか。



し だいまる

◆四大丸のイチョウ (大字教楽来)

遠くから眺めても存在感がある。市内のイチョウのなかでも最大級。正往寺の境内にそびえたつ。お寺の屋根とのコントラストが、このイチョウの悠々とした姿を際立たせる。「堂々と生きていけ」と言っているかのよう。樹齢は300年以上と推定。秋の紅葉の時期は、特に見応えあり。



つち あな

◆土穴のエノキ (大字櫟野)

里山の石垣の丘にたつこのエノキは、形状がみごと。苔むした幹、伸び伸びと広がる枝葉には、めずらしいイチョウや虫、鳥がたくさん集まっている。

樹齢300年以上と推定。「土穴」の名前は、櫟野の北部山麓に奥深い穴があったのが由来といわれている。



いま やま

◆今山のガリュウバイ (大字今山)

近づくと梅の香がぶーんと漂う。大きな梅がなっており、花の季節とはまた違った顔に会えた。樹齢450年以上と推定。普光寺内。

母樹から古幹が這い全長24メートルに及び17株の叢(そう)が連なる。

緑のカーテンを
つくっている
吉野小学校
緑化委員会

